

【安田議員】

新国民生活指標、いわゆる豊かさ指標がことしも経済企画庁から発表されました。この指標は、私たちの生活を、食べたり、働いたり、学んだりといった領域に分け、四つの指標を評価の道具として用いられながら、その領域ごとに国民の満足度を分析したものでございます。

私は、そこで用いられている指標のうち、「安心・安全」そして「快適」の二つの指標が、市民生活の豊かさや満足度を示す特に基本的な指標であると考えております。そして、これらの指標のレベルを高めていくことが、まちづくりにとっても重要であると考えております。

先般、私は神戸、大阪、東京を訪れ、阪神・淡路大震災の復興への取り組みや、先進的な動物園、大規模公園の整備について、各自治体の担当者の方々からお話を聞くことができました。

きょうは、各地の訪問の際に感じたことも交えながら、安全の確保といった視点からは危機管理について、快適さの向上といった視点からは旭山動物園の整備について、それぞれ考え方を伺いすることにいたします。

危機管理について**【 質 問 】**

阪神・淡路大震災、北海道南西沖地震、松本サリン事件、地下鉄サリン事件、豊浜トンネル崩落事故など、ここ数年の間に大きな災害や事件が続きました。特に、阪神大震災については、テレビや雑誌で伝えられた光景が、私の脳裏に焼きついて離れません。

私が訪れたとき、神戸では新しいまちの建設が始まっておりました。しかし、地震の傷跡はまちのあちらこちらに残っており、震災直後の惨状を神戸市の職員からお聞きすることができました。子供たちが、亡くなった両親の遺骨をなべに入れて運んでいることや、動物園のホールは遺体安置所になっていたりしたそうです。

多くの職員の方々が救援業務に従事しました。その中には、人々が次々に亡くなっていくのを目の当たりにして、正常な心理状態を維持できなくなり、今も心のケアを必要としている方々が少なくないそうでございます。

こういった悲惨な事態をできるだけ避けるためには、いわゆる危機管理という発想で災害に備えていくことが必要であると思います。そもそも危機管理という発想は、戦後のアメリカにおいて、全面的核戦争を抑止するためには何をすべきかを研究するところから生まれてきたものだと言われております。大震災やサリン事件を思い起こしてください。それは災害や犯罪との戦争にほかなりません。

最悪に備えよ、これが危機管理の原則であります。ところが、こういった基本的立場に立つことが自治体にとって難しいものでございます。

「神戸は御影石の上に立っている」という言い方があったそうです。大震災前、ほとんどの人々は地震が起こることなど全く予期しておらず、そのことが被害を大きくした一因だとも聞いております。

旭川にも似たような話があります。多くの市民の方はこう話しております。「旭川は日本一安全なまちだ」、あるいは「旭川には震度4以上の地震はない」と。たまたま私たちが知り得る過去の記録では、このまちに大地震が起こっていないかもしれませんが、これからも全くないとは言えませんし、大震災に匹敵するような水害などが発生する可能性はあるのです。

危機の予測、危機の防止、危機への対処、危機への再発防止、危機管理にはこの四つの段階があるとされておりまして。

災害への対応に関し、これら各段階の全般にわたって関係行政機関が行うべき任務を定めているのが地域防災計画であります。本市の計画は、現在、改定作業中であると聞いております。

まず最初に、計画の改定作業を含めた防災対策への強化の取り組みについて、その進捗状況をお聞かせください。

大災害が発生したときには、情報が迅速かつ正確に行き渡ることが必要であります。阪神大震災においては、特に初期の段階で必要な情報が伝達されず、被害の拡大につながったことは残念なことでございます。大災害発生時の情報収集や連絡をどのように行うのか、お聞かせください。

阪神大震災が発生したのは1月17日です。そのころ、北海道は連日氷点下の世界にあります。まさに最悪の状況になると思います。家を失った人々は、学校の体育館などへ避難することになるでしょうが、停電になっていれば、今の暖房設備では利用できません。どのような方法をお考えなのでしょうか。

厳寒期においては、食糧や飲料水の確保についても多くの障害を伴うものだと思いますが、どのような対策を検討されているのでしょうか、あわせてお聞かせください。

また、大災害が発生した場合には、ハードとソフトの両面の機動力を確保しなければなりませんから、災害対応の拠点となる防災センターの整備も急がれるところでございます。この点について、どのように取り組まれているのか、お聞かせください。

【総務部長答弁】

防災対策にかかわりまして、数点の御質問がございました。

まず、防災対策の進捗状況についてでございますが、非常用食糧、毛布などの備蓄を初め、避難場所標識の設置、あるいは水道配水本管の石綿セメント管の布設替えの促進、加えて防火水槽の整備などを進めておるところでございます。

さらに、地震発生時における災害対策本部設置基準や職員の参集体制の確立を図ってきたところでございます。

現在、防災計画の見直し作業を進めておりますが、本年度は本市の自然的、社会的条件等を踏まえて、災害の危険性を把握するための基礎調査を実施しているところであり、今後、地域ごとの災害危険性の把握や対策の検討を行いながら、新しい計画を策定してまいり所存でございます。

大災害発生時におきまして、被害状況や被災者の救出、救助などの情報を迅速かつ的確に把握して対応するためには、非常配備におきます職員の参集途上の目視による情報収集、あるいは現場派遣による情報収集、防災行政無線の活用を図ることは当然のことでございますが、何よりも大切なことは、警察、自衛隊など、国や他の公共機関との連携であります。そのためには、今後、より情報連絡体制の充実に努めるとともに、情報通信ルートの多様化も必要なことと考えているところでございます。

御質問のございました冬期間の災害時における避難場所での暖房、食糧などの確保も重要な課題の一つでございます。

ライフラインの早期復旧はもちろんのことでございますが、停電時におけるストーブの確保も必要と考えており、食糧や毛布などの備蓄を進めているところでございますが、必要な物資の確保につきましては、民間業者や他の自治体との協定なども視野に入れて考えてまいりたいと思っておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

【消防長答弁】

防災センターの設置についてでございますが、防災センターは、非常時には市民の避難場所や支援物資の集積、配送基地、防災ヘリコプターの離着陸の基地として、あるいは災害時における応急救護の拠点として活用しようとするものでございまして、研修室、体育館、屋内訓練場、屋外グラウンド等を備えるものでございます。

また、平常時は一般市民や自主防災組織に対し、防災教育や訓練を行い、消防職団員の訓練研修施設として活用するとともに、各種スポーツ、集会、イベントの会場として広く市民に開放し、有意義な利用を図っていただくことを考えてございます。これにつきましては、第6次総合計画及び地域防災計画に織り込むとともに、全市的な施設としてさまざまな機能や交通の利便性を考慮した場所に設置をしたいと考えており、現在、設置の時期や場所、また、施設の内容について鋭意具体的に検討しているところでございますので、御理解を賜りたいと存じます。

危機管理について

【 質 問 】

危機管理は行政だけが行うものではございませんし、行い切れるものでもありません。危機の局面ごとに市民や民間組織が果たすべき役割があり、あるいは市民の方々が自主的に取り組むことができれば、よい結果を期待できる役割があるはずです。

しかし、この場合においても行政機関がノウハウの提供や適切な助言などの支援を行うことなどにより、一層大きな効果が出ると期待できるに違いありません。ここでは、市民の自主的な災害対策に対する行政機関の支援に関し、数点質問させていただきます。

災害が発生した場合において特に重要なのは、災害発生の初期における対応であります。救援部隊が到着するまでには、かなりの時間が必要とします。その間、住民みずからが主体的に、かつ町内会レベル、職場レベルで組織的に対処し、消火活動や下敷きになった人々の救出を行うことができれば、被害をかなり食い止めることができるはずです。

旭川市では、現在、自主防災組織の育成に取り組んでいるとのことですが、その取り組み内容についてお聞かせください。

また、神戸では行政機関からマニュアルの提供を受け、日ごろから訓練を行っていた人々は、大きな成果を上げたと聞いております。

本市においても、災害発生時の行動マニュアルを作成し、市民に提供することが必要であると考えておりますが、この点についてもあわせてお答えください。

神戸では、震災後の長期にわたりボランティアが活躍し、被災者救援の大きな力となりました。災害が大きいと、多くの救援従事者が必要となるばかりでなく、医療、福祉、通信、交通など、専門的な技術が必要となります。ボランティアの能力を効率よく活用するためには、ボランティアとなり得る方々の中でも、特に専門資格の取得者の把握が必要であると私は考えます。この点についてどのようなお考えか、お尋ねいたします。

【消防長答弁】

自主防災組織の育成と行動マニュアルの作成についてでございますが、地域の被害を最小限に抑えるための初期対応の基本は個人であり、地域でありますから、可能な限り情報を提供し、地域レベルで対応できるようにすることも大切であり、災害発生時にはどのような行動をとるのがよいかといったマニュアルを示すことや、訓練を通じて体験することも必要なことと考えております。

現在、自主防災組織の結成、育成に取り組んでおりますが、平成7年度においてはモデル事業として11組織結成と、22本の防災井戸を設置したところでございます。

平成8年度からは、国の補助事業との関係もありますが、おおむね10年をめぐりに事業を進めたいと計画しております。また、自主防災組織の活動マニュアルの策定中でありまして、今後は防災井戸や防災資機材の訓練等を通じて、自主防災活動が促進されていくものと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

【総務部長答弁】

防災ボランティアについてのお尋ねがございました。

昨年の大震災では、災害発生直後から多くのボランティアが被災地に駆けつけ、物資の仕分け、あるいは避難所の運営、医療介護、運送など、さまざまな分野で重要な役割を担っていたところであり、改めてボランティア活動が見直されたところがございます。

したがって、災害時における行政とボランティアとの連携が極めて大切なことであり、御意見のございましたとおり、専門技能や資格取得者、例えば医師、看護婦を初め、応急危険度判定士、アマチュア無線家、重機などの運転資格者などの把握に努め、登録しておくことは重要なことだというふうに認識してございます。

現在、本市の防災計画の見直し作業を行っておりますが、ボランティア活動が効果的に生かされる方法などにつきまして、防災計画の中でも位置づけてまいりたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

旭山動物園について

【 質 問 】

旭山動物園は、来年、開園30周年の節目を迎えようとしております。樹木も茂り、落ち着いたたずまいの中にあります。

しかしながら、動物の展示方法など基本的な姿は、開園当時のままであると言っても過言ではございません。

その間、動物園のあり方は大きくさま変わりしてまいりました。

第1に、動物の展示方法が個体の展示から群れへの展示へ、さらに進んで生息環境を含めて展示するという生態展示へと進化してまいりました。すなわち、単に動物の体を見せるのではなく、動物の生活全体を見せるようになってまいりました。コンクリートと鉄のジャングルの中では、野生動物の本当の生活を見ることはできません。少なくとも、ゆったりとした空間で緑の木陰にくつろぐ動物の暮らしを見せてほしいものであります。そうすれば、子供たちも動物が生き生きと暮らせる環境や、地球上の多様な環境を認識することができ、動物園の行う環境教育の一環としても大きな意義があると思っております。

神戸の王子動物園、大阪の天王寺動物園などでは、この点に関して大きな工夫が施されておりました。動物たちは広々とした空間にグループで飼われておりました。その空間は、可能な限り草木で覆われ、擬岩や擬木が多く用いられており、背景のコンクリートには草原や森の絵がかかれておりました。

また、鉄さくではなく、ガラス張りの施設でヒョウを目の前で見ることができ、ガラス越しに水中で泳ぐホッキョクグマやアシカに新たな感動を覚えて帰ってまいりました。

また、来園者との間にさくを設けず、小動物との触れ合いを目的とした施設は、今やど

この動物園にも充実したものとなり、入園者の人気の的となっております。

第2に、世界的に自然保護思想の高まりを見せている中で、動物園の役割の一つであります希少動物の保護活動、すなわち種の保存がクローズアップされてきたことも、大きな変化の一つであります。

旭山動物園でもホッキョクグマやシベリアヒョウなどの繁殖を手がけ、種の保存活動に参加していることは有名ですが、世界の情勢はさらに進んでおります。動物園の存在意義は野生動物の保護にある、と主張する動物園もあられ、有名なニューヨークのブロンクス動物園が、5年ほど前にその名称を国際野生生物保護公園に変更してしまったのを初め、名称を野生生物保護をうたったものに変更した動物園や水族館は数多いとのことでございます。歴史的に親しんだ名称である動物園や水族館の名称を変えてまで、動物園の存在意義をアピールしようとしているわけでございます。アメリカでは、希少動物の繁殖を目的とした動物園を設置しているところもあり、動物園の繁殖活動が、動物を生息地以外での自然保護活動として評価されるようになってきているとのことでもあります。

第3に、展示動物の福祉にも重要な関心事となってきていることです。動物の虐待と感じさせるような展示をする動物園は、動物園に値しません。やはり動物たちがよく世話を受けていると感じさせるような方法で飼育することが、最低のモラルだと思っております。これは、飼育施設を含めてのことです。幾ら愛情をかけられて飼育されていても、狭過ぎる施設ではかわいそうという印象を受けてしまいます。

こういったことから考えますと、この時代に必要とされる動物園とは、動物の福祉を考えた飼育方法で動物を展示し、来園者が多様な環境の中での動物の暮らしを楽しく観察できるようなものでなければいけないと考えます。

東京の上野動物園では、生態展示と希少動物の繁殖を目的とした整備計画を立て、ライオンなどの飼育をやめ、ゴリラとトラの住む森を建設したとのことでもあります。「動物園からライオンがいなくなる」と、大ニュースになったことも記憶に新しいところでございます。今や、動物園は飼育動物の種類数ではなく、希少動物の繁殖やその展示の仕方を誇る時代になってきているということが考えられます。

今回訪れた動物園は、いずれも動物たちを身近に感じることができ、可能な限り人工的なおいを排除してありました。

私は、動物たちを、そして動物園を愛するファンの一人として、そのすばらしさに感動を覚えたのでございます。

さて、今まで述べてきたように、動物園のあり方が大きく変わってきている中で、旭山動物園はどのように対応してきているのでしょうか。私が見てきたところでは、最も原始的な個体展示を目的とした古い施設がまだ見受けられ、展示室についても鉄さくとコンクリートだけでつくられているものが多いようであります。

【商工部長答弁】

旭山動物園にかかわって2点の御質問がございました。

まず、動物園のあり方の変化をどのようにとらえているかについてでございますが、近代の動物園のあり方といたしまして、ヨーロッパを中心に教育的な役割を重視した動物園づくりが行われてきており、最近の自然保護思想の高まりの中で、動物園の果たす役割は環境教育と自然保護、特に希少野生動物の保護であるという考え方が広まってきております。

現在、最も進んでいる動物園と言われておりますアメリカ型の動物園は、その二つの使命を両立した考え方、いわば楽しく学ぶことができる動物園づくりが展開されております。

したがって、旭山動物園もそのような世界的な流れの中の動物園づくりを目指してまいりたいと考えております。

次に、旭山動物園の水準についてであります。近年の傾向で、動物園はともすれば大型化する傾向にございます。

しかしながら、旭山動物園くらいの規模でありましても、環境教育や自然保護を重視した動物園の役割を十分に踏まえ、活動していけるものと考えております。

現在も旭山動物園は、日本動物園水族館協会の種保存委員会におきまして、ホッキョクグマ、シベリアヒョウ、日本産猛禽類のコーディネーターを務めておりまして、いずれも世界の繁殖計画の一翼を担っております。

また、自然保護運動に関しての考え方といたしましては、郷土の動物を展示し、その繁殖を図っていくことが重要視されております。このような方向は間違いなく世界的な流れに沿ったものだと考えております。

今後、動物の展示を生態展示などの新しいものに整備する中で、環境教育や種の保存活動を充実していけば、十分世界的な水準の動物園になれるものと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

動物園について

【 質 問 】

続けて、動物園の整備について、先ほど申し上げましたようなところから、規模が大きいということ自体は、大した魅力ではないということになります。個性と活動内容が重要になり、たとえ小さくともその個性と活動がきらりと光る動物園づくりをしていただきたいと思っております。現在、旭山動物園においても個性的と思える活動は小さいながらも見ることができます。

例えば、最近話題となった傷ついた動物たちの展示です。これは、身近な自然保護の大切さを訴えるものです。

また、夜の動物園もすばらしい。王子動物園長のお話では、夜間開園は夜行性の動物がたくさんいるからこそできるものであり、全国的にも余り例がなく、うらやましいとのことでした。旭山動物園の魅力を高めていくためには、こういった個性づくりをさらに進めていくべきであると、私は思います。

そこで、旭川近郊の動物を放し飼いにし、その中を入園者が散策しながら、小動物や小鳥たちと触れ合いをできる体験ができ、身近な自然環境を学べるような施設をつくってはいかがでしょうか。子供たちは、動物との触れ合いを通し、生態系の仕組みを学び、自然の楽しさを学ぶことができます。また、命の源でもある水をテーマにした展示にも力を入れてはいかがでしょうか。

旭川は川のまちです。大地に降った雨は川に集まり、海へ注ぎます。水の流れの中にはいろいろな動物たちがいます。石狩川でふ化したサケが、川下りの途中で、日本海で、そして太平洋で出会う動物や魚たちをパノラマのように展示できれば素晴らしいものだと思います。

さらには、動物だけでなく、生態系の一部として植物や昆虫類を展示する施設をつくってはいかがでしょうか。

そこで、お尋ねいたします。動物園の個性づくりについて、どのように取り組んでいかれるおつもりでしょうか。

私が訪れた動物園には、目をみはる点がいろいろとありました。例えば、展示されている動物を紹介したカード型の解説書だとか、動物園のガイドブックや写真集など、多くの動物園グッズが用意されておりました。出版物の多さにも驚きました。

聞くところによりますと、行事や出版などを担当する専門の職員が配置され、普及活動に力を入れているということでした。また、動物園協会や友の会組織も充実しており、普及活動の一翼を担っているとのことでした。

動物園も、ハードとソフトの両輪がかみ合って動かなければうまく機能しません。そのためには、動物園スタッフの増員強化も必要であると思いますが、いかがお考えでしょうか、お答えください。

それから、動物園の防災対策についてであります。愛すべき動物たちとはいえ、地震などの極限状態において、おりから逃げ出せば、人間にとっても、動物にとっても不幸な結果を招きます。神戸では、あの大震災においても被害がなく、逆に住民の避難場所や自衛隊の駐屯地として利用されたそうであります。その点、我が旭山動物園は施設も老朽化しており、いささか不安であります。安全確保についてはどのような備えをしているのか、お答えください。

【商工部長答弁】

旭山動物園の個性づくりの取り組みについてのお尋ねでございますが、旭山動物園は日本で最も北に位置する動物園でございます。ユキヒョウやオオヤマネコといった北方系の動物を展示しております。

また、フクロウやエゾリスに代表される北海道の動物を飼育し、身近な環境教育へ役立てておりまして、これが大きな特徴となっております。

また、御指摘のありました身近な動物たちとの触れ合いを体験する、生態系を学べるような施設につきましては、子供たちの自然教育に大変役立つものと思われまして、石狩川をテーマとして魚類だけでなく、水生昆虫までも含めた淡水水族館の構想は、見て楽しいばかりでなくて、子供たちの情操教育にとっても大切なものであると考えておりますので、他都市の例などを参考にしながら、将来的な課題としてとらえてまいりたいと考えております。

次に、動物園のスタッフにかかわるお尋ねでございますが、将来にわたり動物園整備を進め、教育活動や種の保存事業を推進していけば、それに伴いまして施設の維持管理や教育活動にかかわる専門家の育成など、人員の充実を図っていく必要がございますので、施設の規模、あるいは事業内容に応じた適切な人員配置を行ってまいりたいと考えております。

また、動物園活動への市民の参加という視点で、市民主体の友の会活動を提案していただく方もおりますので、そのような方々の御協力もいただきながら、充実した動物園活動を展開してまいりたいと考えております。

最後に、災害時の安全確保に関するお尋ねでございますが、猛獣などの危険動物を飼育している施設につきましては、動物の脱出を防ぐための三重ドアや三重ロックを基本として整備しているなど、安全確保には万全を期しておりますが、老朽化した施設につきましては、計画的な年次の中で整備することを検討してまいりたいと考えております。

また、脱出事故や火災などの災害に対応して、職員や関係機関への緊急連絡方法などを規定した動物脱出事故処理マニュアルや、消防計画に基づいて迅速な対応を図れるようにしております。

今後とも安全確保につきましては、日常の安全管理を徹底するとともに、事故対策に当たった訓練内容を充実するなど、さらに十分な対応を図ってまいりたいと考えておりますので、御理解賜りたいと存じます。

【 質 問 】

私たちは、平穏に暮らす人々を突然襲ったあの日の理不尽な出来事を、そしてその傷をいやし、新しい希望を得るために活躍した多くの人々のことを決して忘れることなく、記憶にとどめておかなければなりません。

危機管理の第4段階、危機の再発防止はここから始まると思います。

神戸の王子動物園では、大震災後の昨年3月に、市民からの要望で一般無料開放を行ったところ、災害に打ちひしがれ、復旧作業に精いっぱい市民が、何と3万人以上もやってきたそうであります。「動物園は、市民に明日の希望を与える施設なのだ実感した」、神戸の権藤園長はお話ししておりました。

同じように、旭山動物園もまた、市民に夢と希望を与える施設でなければなりません。そういった施設とするためにも、今後、具体的にどのような整備を行っていくのか、市長のお考えをお聞かせください。

【市長答弁】

安田議員の動物園にかかわって、世界的な動物園の知識、あるいは全国各地の動物園の姿を挙げながらの質問でございました。

私も、市長になりましてから、それだけではなくて、つい先般も久方ぶりに札幌の円山動物園を視察をさせていただきまして、旭川と比べて大変有意義な面があったなというふうに考えておりました。今後の動物園づくりにもただいまの指摘を含めて、参考にさせていただきたいというふうに考えておりますが、いずれにいたしましても、動物園が今言ったようなことで非常に大切なことであるという認識を持ってありますし、世界的なやはり動向というものを意識しながら動物園づくりというものを進めていかなければならない、この基本は私も同じでございます。

そして、やはり動物園というのは、もう市民に夢を与えたり、希望を与えたり、楽しさを与えるような施設でなければならぬということも事実であります。

今後の整備についてでございますが、やはり動物園全体のイメージというものをやはり美しくしなければならぬと思っておりますし、私は旭山動物園を見まして、植物が随分育ってきているということもすばらしいなと思っております。

しかし、やはりあそこに植物だけではなくて、水のせせらぎなどをあの斜面を利用してつくってはどうかという、そんな感じもいつも考えておりました。

また、単なる植物だけではなくて、今日ハーブの栽培なんか非常に皆様方から興味を持たれるわけでありまして、そんなものを植えて、水と緑の拠点都市ではございませんけれども、そういう関連性を持たせることも大切ではないかなと思っております。それから、園内を見渡してみまして、やはり非常に勾配があるということが、また個性を持たせているんでありますが、しかし、高齢者の皆様方には、見学の仕方によってちょっと疲れるなという感じもたまにはあるわけでありまして、そういう意味で

の高齢者向け、幼児向けの園内の交通の利便性なんかも考えれる方法がないかな、あるいは、木陰で休むところとかあずまやもあるんではありますが、しかし、休憩の面なんかはもっと工夫する必要がないかなと、そんな感じも私は率直にいつもいたしているわけでありす。

肝心の動物たちのことではありますが、動物の本来の生活がやはり見られるようなものでなければならぬわけございまして、人間が無理やり強制をするような形になるようなことは、やはりなるべく避けていかなければならぬのではないかと思います。

やはり鳥というのは、空を飛ぶところに鳥の本来のすばらしさがあるわけでありすから、やはり鳥が飛べるような施設をつくらなければならぬ。

しかし、施設をつくらなければどこかへ飛んで行ってしまうわけですから、ネットを張るとか、そしてそういう中であって、人が入れば、人と鳥とが触れ合いが隔てることなく観察をできたり、愛情を深めていくことができる、そんな感じもいたしております。

札幌の円山動物園、ほかにもありますけれども、例えばドーム型の中で、南の鳥が大変楽しく人との交わりという形の中で、触れ合いを持っているということもなかなかいいことでありす。

それから、御指摘のとおり、アザラシでありますとかホッキョクグマは、歩いているときというよりも、やはり泳いでいるときにその美しさや特徴というものが私はあるというふうに感じてございまして、それをお見せすることが動物園のやはり使命ではないかなと思っております。

それから、よくテレビでありますとかいろんなところで、アフリカや草原の姿というものを私どもたまたま見るわけでありすけれども、そういう広い中で、やはりキリンだとかシマウマ、ダチョウ、カバというものが、それぞれの自分に合った環境の中で過ごしているという、そういうもののイメージを抱かせるような、狭くても動物園というものも考えていかなければならぬというふうに思っている次第でございます。

いずれにいたしましても、そのことによって人に夢を与えるということだけではなくて、動物そのものが少しでも幸せ感を感じるようなやはり施設というものも、御指摘のとおり私ども工夫をしていかなければならぬと思っております。

それから、私はある動物園で大変感動したわけでありすますが、ひなが卵からかえる状態を見せているところがあったわけでありまして、私はそういう瞬間を見て、生命、命の神秘さ、大切さというものを私なりに感じさせていただいた、感動的なときがございました。

大人の私でもそう感じるんでありますから、子供たちにその姿を見せたら、生命の神秘さというか、すばらしさというものをより感じるのではないかなという感じをいたしております。

いずれにいたしましても、今年度、こども牧場を整備しようということで、やはり子供と動物がじかに触れ合えるような整備を今やろうという最中でありす。

いずれにいたしましても、これから年次的になかなか財政も動物園というのはかかるも

のでありますが、魅力や特色のある動物園づくりのために、議会の皆さん方の御理解をいただいたり、市民の皆さん方の御提言をいただいたりして、整備に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、御理解を賜りたいと思います。

【 総 括 】

旭山動物園は、市民ばかりでなく、周辺市町村や道東、道北を中心に道内各地の人々にまで広く親しまれており、いわば旭川の顔とも言えるものであり、ぜひ今後とも内容を充実させ、国内ばかりでなく、世界の動物園とも肩を並べることのできる動物園づくりを目指していただきたいと思います。

新しい時代の創造は、市民一人一人の強い意志が結集してこそ可能となります。私もその一員として力を尽くしてまいりたいと考えているところであります。

信頼できる危機管理体制の構築、新しい時代の動物園づくりにつきましても、菅原市長を中心として、市民一丸となって推進していかれますことを希望いたします。